



日本プライマリ・ケア連合学会
中国ブロック支部 活動報告

発行人：松下明
事務局 〒708-1323 岡山県勝田郡
奈義町豊沢 292-1
奈義ファミリークリニック内
Tel. 0868-36-3012

ニュースレター No.7 (2015.3)

【活動報告】

中国ブロック支部交流会を2月14日・15日に山口県で開催しました。以下に写真入りで報告しています。85名の参加者があり、医学生、初期研修医、後期研修医、指導医、地域の病院・診療所医師、看護師と幅広い交流ができました。参加者のコメントも記載しています。ポートフォリオ発表会も16演題と過去最高の数で、活発な議論が交わされました。初日・2日目の講演も多くの質問がでて、学びを深めることができました。

また、同日行われた代議員会では、今後の取り組みとして、後期研修プログラムのサイトビジットを定期的に取り入れる仕組みを中国ブロック全体で考えていくこととなりました。また学会の指導医講習会とは別枠で、中国ブロック内の指導医養成（10名以内の少人数制）を年4回のシリーズで行うことが了承されました。

募集をMLで行いますので中国地方の指導医の皆様、ご期待下さい。

(文責 岡山家庭医療センター 奈義ファミリークリニック 松下明)

●2015年2月14日、2月15日

○日本プライマリ・ケア連合学会 中国ブロック支部
交流会 in 山口

○場 所：山口県山口市（セントコア山口）

○参加者数：85名（医師72名、医学部学生12名、看護師1名）

○概 要

1 日 目：テーマ『家庭医療のコア・セミナー』

“家族志向のプライマリ・ケア”



講師 岡山家庭医療センター 松下明先生

“ポートフォリオ&模擬レジデントデイ”



講師 広島大学病院 総合内科・総合診療科 横林賢一先生

“ポートフォリオ発表会”



発表16演題、掲示3演題



家庭医の先生方がどのような点に気をつけながら診療をされているのかが分かり、将来のイメージをする事が出来ました。(医学部学生 5年生)

どんな種類の臨床をしても普遍的に大事にしていきたい『家族ごと診る』『アウトカムを意識して振り返りつつ前に進む』『生活を聴き取る』学びが得られる、充実した講演を拝聴できました。また、自分にとってまだまだ馴染みの薄いポートフォリオの具体例を数多くみるところができ、大変参考になりました。(医師 女性 30代)

レジデント・デイ知っていましたが、実際に触れられて明日から活かせるアイデアを沢山頂きました。実践的で面白かったです。(医師 男性 30代)

渡部 純	鳥取県立中央病院	家族カンファレンスを通じてラポール形成構築 訪問診療につなげた症例	コミュニケーション
菊地 由花	広島大学病院	評価尺度を用いて独居高齢者の問題を適切に評価し 生活を安定させることができた一例	複数の健康問題
江口 智子	社会医療法人清風会 岡山家庭医療センター	各職種が行う支援が有効に相互作用した一例	リハビリテーション
松本 翔子	出雲家庭医療センター	複数の健康問題を抱え入院となった アルコール依存症患者の断酒治療にむけたアプローチ	BPS
加藤 雅之	鳥取県立中央病院	アルコール依存症患者への行動変容を用いたアプローチ	行動変容
小林 知貴	広島大学病院	長年の症状のため将来に悲観し生きる意欲も無くなっていたが、 bio-psycho-social アプローチにより症状の改善を認めた1例	BPS

辻川 衆宏	社会医療法人清風会 岡山家庭医療センター	退院先について患者と家族で相違があり悩んだが、 「三角関係の視点」を意識して行動することで、 落ち着いて判断することができた症例	患者中心・家族志向 の医療を提供する能 力
高山 厚	下関市立豊田中央病院 長州総合医・家庭医養成プログラム	大家族における大黒柱の終末期への関わり	終末期
櫻井 重久	鳥取市立病院（佐治診療所）	小規模多機能型施設で認知症終末期患者の看取りを行えた一例	終末期
松本 賢治	出雲市民病院	食思不振、全身性浮腫を来した適応障害患者のマネジメントに 苦慮した症例	BPS
中安 一夫	周防大島町東和病院 長州総合医・家庭医養成プログラム	急な在宅終末期ケアの依頼にも関わらず、 多職種と協力しながら24時間サポート体制を整えたことで、 在宅看取りが可能であった1例	終末期
中安 一夫	周防大島町東和病院 長州総合医・家庭医養成プログラム	糖尿病の悪化に対し、LEARNのアプローチを用いて 再教育・再支援を行い、良好なコントロールにつながった1例	行動変容
丸山 淳也	社会医療法人清風会 岡山家庭医療センター	意思決定のできない高齢者の治療方針決定にあたり 家庭の状況を理解することで方針を決めることができた症例	高齢者
石井 絵里	社会医療法人清風会 岡山家庭医療センター	意思決定が困難な患者の家族の気持ちに寄り添う	家族志向のケア
能美 雅之	島根大学	スタッフ間のコミュニケーションを図りながら 嚥下リハビリをすすめ、入院前施設への退院が可能となった症例	リハビリテーション
片山 寛之	山口県立総合医療センター 長州総合医・家庭医養成プログラム	交通事故後の急性ストレス障害を疑い、 精神科医からの助言を受けて対応した2歳4ヶ月例	メンタルヘルス

※ベストポートフォリオ賞：出雲家庭医療センター 松本 翔子 先生

『複数の健康問題を抱え入院となったアルコール依存症患者の断酒治療にむけたアプローチ』



「懇親会」



2日目：テーマ『家庭医の診療底上げ講座-感染症の common disease 総ざらい-』

講師 国立国際医療研究センター 国際感染症センター 忽那 賢志 先生



感染症における問診の仕方や、抗菌薬の適正使用について、楽しく学ばせて頂きました。(医学部学生 5年生)
MSM(men who sex with men)など問診すること自体思いもよらなかったです。でも、改めて違う目線を認識することができ、とても良い学びの機会でした。(医師 男性 50代)

このたびは、企画する側でしたが、多くの学びと貴重な出会いをいただきました。学生さんのモチベーションの高さと行動力が印象的でした。遠くからお越しの参加者の皆様には心より感謝いたします(幹事より)。

(文責 山口県立総合医療センター 中嶋裕)